

年 間 取 扱 概 要

1 総取扱高

平成 27 年 1 月から 12 月における水産物の総取扱高は、数量 90,222t、金額 101,184,014 千円であった。前年と比べて数量は 8,578t 減少（前年比 8.7% 減）し、金額は 468,921 千円増加（前年比 0.5% 増）した。平均単価は 1,121 円となり、前年と比べて 102 円増加（前年比 10.0% 増）した。

2 部類別取扱高

(1) 鮮魚介類

数量は、「白さけ（秋さけ、時さけ等）」は定置網の漁具被害と来遊不振もありやや減少。「するめいか」は道内物の不良によりかなり減少したため、取扱数量 35,353t（前年比 7.3% 減）と、前年と比べてやや減少した。

金額は、「さんま」は道内物の不漁により数量は減少したものの単価高となり、「すじこ」は道内物が潤沢に入荷し単価高で推移したため、取扱金額 37,239,222 千円（前年比 4.0% 増）と、前年と比べて微増した。

平均単価は 1,053 円（前年比 12.1% 増）となり、前年と比べてやや増となった。

(2) 冷凍魚介類

数量は、「冷紅さけ」の取扱量が前年並みであったものの「冷たらばがに」はロシア産の輸入厳格化により取扱量がかなり減少したため、取扱数量 33,822t（前年比 8.6% 減）と、前年と比べやや減少した。

金額は、「冷ほたて」が単価高となり金額は増加したが、「冷たらばがに」の取扱高が減少したため、取扱金額 36,350,965 千円（前年比 1.9% 減）と、前年並みとなった。

平均単価は 1,075 円（前年比 7.4% 増）となり、前年と比べてやや増加となった。

(3) 加工品類

数量は、「いくら」の取扱量がかなり増加したものの、「塩紅さけ」の取扱量がやや減少したため、取扱数量 21,047 t（前年比 11.0% 減）と、前年と比べてやや減少となった。

金額は、「いくら」の取扱量が増加したため、取扱金額 27,593,827 千円（前年比 0.9% 減）と、前年並みとなった。

平均単価は 1,311 円（前年比 11.4% 増）となり、前年と比べてやや増加となった。